



## 『持続可能な取組』に向けて

藤山ふれあいセンター 海頭 巖

『萌ゆる緑』の季節から『花燃え風薫る』季節を経て『燃える緑』の季節へと向かうはざまの今。一年の中で最も清々しく、過ごしやすい季節です。

『緑の萌え』から『緑の燃え』へと移っていく中で、木々や草花のたくましい生命力を感じますね。そのような中で、どうしても避けられないのがすさまじいまでの生命力を誇る雑草の繁茂です。

さて皆さん。5月10日は何の日かご存じですか？藤山中学校では5年ほど前から、そのゴロを使って、5・10（こ・とう）で『厚東川の日』と銘打って、厚東川下流域をはじめ学校周辺の清掃活動に取り組んでいます。昨年からは藤山小学校、今年からは鶴ノ島小学校も参加して、より大規模な活動へと広がりを見せています。

特に今年は、小中学校が藤山18区自治会、エビス商会とタイアップして、藤山中学校西側の川の除草に精力的に取り組みました。大量の草を一度には除去できないのではないかと思います。そこは学校・地域・企業の協力体制で、見る見るうちに草が取り除かれていきました。多くの人達による川に入り込んでの人海戦術。そしてクレーンを使っての大規模回収作戦。それはもう、それぞれの主体

が持ち合わせている可能な限りの能力を発揮しての作業でした。

塵芥（じんがい：ちり・あくた、つまりゴミ）を集めるのは一人ひとりの心掛けや活動が大事なことは言うまでもありません。しかし、みんなで手を取り合って協力し合う人海作戦を展開していけば、塵芥作戦？も成功するのではないのでしょうか。今回の取組みは、『SDGs』の11『住み続けられるまちづくりを』、12『つくる責任・つかう責任』、14『海の豊かさを守ろう』、特に17『パートナーシップで目標を達成しよう』が強く感じられました。

このような取組が『持続可能な取組』であるためには、『産』『学』『官』『民』のそれぞれの主体の連携と次世代を担う『宇部志民』の人材育成が大きく関わってきます。これからも『できることから、連携・協力し合って続けていく！』これで行きましょう！！



人海戦術による作業

校長先生も生徒と一緒に

クレーン出動

清掃作業後

## 第2回ばら売り量り売りマルシェ inうべ

日時： 2023年6月4日（日）  
11:00～15:00

場所： 山口合同ガス 宇部支店  
ひまわり館

（宇部市神原町2丁目6-69）

主催：ばら売り量り売りマルシェin  
うべ事務局 後援：宇部市

必要なものを、必要な分だけ買い、食品ロス・プラスチックごみを減らすエコなマルシェです。

来場の際は、容器（弁当箱/密閉容器/空き瓶/マイボトル等）をご持参ください。

・野菜・果物・パン・おはぎ・卵・お茶・ナッツ・他



## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

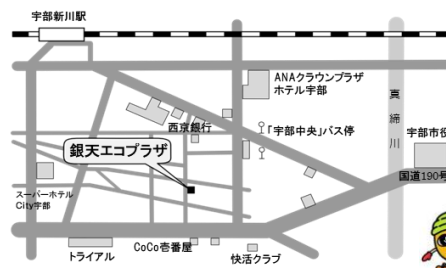
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



twitter

NPO法人うべ環境コミュニティ



## 農業に取り組んで

山下裕樹（小野湖の水を守る会）

私はいま宇部市小野で農業に取り組んでいるのですが、少しだけ農業に興味を持っている知人から最近言われた言葉でとても印象に残っている言葉があります。それは私が毎日畑に行っていると言った時に返ってきた言葉で「やっぱり農業って毎日畑に行って野菜の世話をしないといけないから大変だね」という言葉です。なぜ印象に残っているかという、野菜の世話をすることが大変だという感覚が私にとって新鮮だったからです。

まず、毎日野菜の世話をしないといけないかどうかで言えば、全くそんなことはありません。

”週末農家”という言葉があるくらいですから、育てる野菜や量にもよりますが、そこまで頻繁に世話をする必要はありません。私が毎日畑に行っているのはそれが単純に面白いからであり、例えるなら人に強制されない状態で毎日自分が面白いと思えることに取り組んでいるようなものです。

確かに野菜の販売を目的に大量に作る場合や義務として納品をする場合には気が乗らない時でも動かなければならず、それは大変な時もあるでしょう。しかしながら私の実践してる農業は”足るを知る農業”を自称しており、大量生産や義務の納品とは無縁の取り組みです。自分の目と手の届く範囲で必要な分を必要な

分だけ作っています。そうすると、農薬や除草剤を使わなくてもしっかりと育てることが出来ますから、消費者である私自身安心して食べることもできるし、人にもあげることが出来ます。

幸福の答えというものは一概には言えません。町でたくさん働いてたくさんお給料をもらい、足るを知らない状態も一つの幸福の形かもしれませんが、今の私は足るを知り、他人と比べるのではなくただ面白いと思えることに取り組むことも一つの幸福の形であると考えます。

一生農業をやっていくのか、いけるのかは知る人ぞ知るかもしれませんが、とりあえず楽しみながら頑張りたいと思います。



初収穫した  
ジャガイモ

タマネギ畑



## 道路交通法の改正と

### 自転車ヘルメットの努力義務化について

村上ひとみ（うべ交通まちづくり市民会議）

改正道路交通法により、今年4月1日から、自転車に乗るすべての方のヘルメット着用が努力義務となりました。2008年の改正道路交通法により、13歳未満の児童・幼児にヘルメットをかぶせることが、保護者への努力義務となっていました。今回、その義務が全部の世代に拡大されたこととなります。

ヘルメット義務化の理由は、警察庁統計により自転車に乗車中の交通事故について、ヘルメット着用の場合に比べて、着用していない場合、致死率が約3倍と大きいこと、また、ヘルメットを着用していない場合の自転車乗車中死者の主な損傷部位は、56%が頭部であるためです。

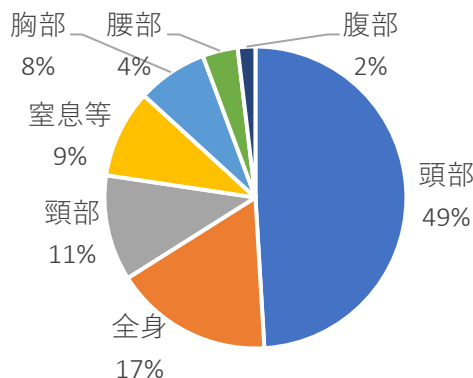
山口県警察本部によれば、10年間の自転車乗車中死者（53名）について、人身損傷の主な部位は頭部が49%と報告されています（図）。

道交法改正により、市内を走る自転車でもヘルメットをかぶる方を時々見かけるようになりましたが、未だ、着用率は低いのが現状です。自転車利用者にヘルメットを課すより、安全な自転車走行空間、道路の整備を急いでほしいという声も聞き、それも大切なまちづくりへの要望と思います。

一方、自転車ヘルメットの利点として、道路を走る仲間として規範意識が上がり

ます。車道左側走行時に、ここに自転車が走っていると、並走する車や交差点で左折・右折する車にアピールする効果も大きいです。スポーツタイプの他、帽子風のヘルメットも販売されているので、自転車店で手に取って、また通販で検索してみると発見があるでしょう。

自転車利用は環境にやさしく、SDGsの11「住み続けられるまちづくりを」につながる取組です。ヘルメットは中学で卒業といわず、自転車通学の高校生・学生もヘルメットを着けて左側通行ルールを守りましょう。電動アシスト自転車も人気の昨今、大人もシニア世代も是非、ヘルメットをかぶって、万が一の事故に備えましょう。



自転車乗車中死者（ヘルメット非着用）の主なケガの部位（2013年～2022年、山口県警調べ）



高校生との自転車WSにて、リーダーも生徒もヘルメット・手信号で左折を合図